

「Bike is Good!」

自転車の良さを今更語る必要はありませんが、
その普遍性や可能性を実証実験から考えてみました・・・

案

THT Japan Ver. 2・6

転遊研活動指針 2013～2015

・・・ “Cycling”とはレースを含むスポーツサイクリング全般。その入口と出口を考える ・・・

はじめに
「THT」とは？
Japan ネットワーク
Ver. 2・6
資料
(展開案／別紙)

自転車遊び研究所

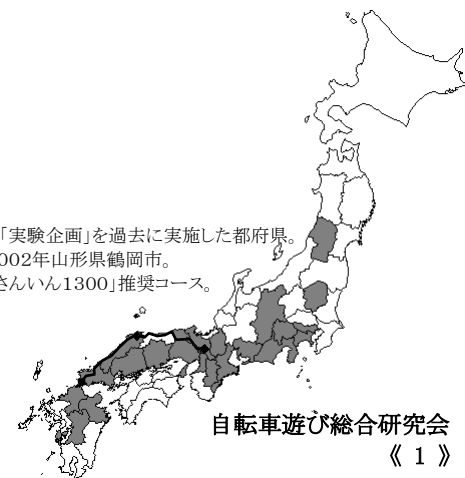
COURSE
CREATE

Open-road, Closed-circuit,
School, Media, Academy

〒740-0036
山口県岩国市藤生町1-30-6
TEL 090-3170-6658
InterFAX 03-6368-4661
E-mail Coursecreate@aol.com
URL <http://www.bike-joy.com>

2012年12月8日(起稿)

※グレー部は「実験企画」を過去に実施した都府県。
初開催は2002年山形県鶴岡市。
※黒実線は「さんいん1300」推奨コース。



自転車遊び総合研究会

《 1 》

… はじめに …

案

「京都議定書」より「京都水会議」。

「環境」より「健康」。

「都市交通」より「サイクリング」。自転車の可能性や楽しさにブレは無い！

しかし、ブームは繰り返された！

昭和30年代の高度経済成長期の第一次に始まり、石油ショック後の輪行車を軸とした第二次、1980年代にはトリアスロンやツール・ド・フランスに注目が集まり、1990年代前半にはアウトドアブームに呼応した MTB ブームがあった。さらに、オリンピック種目にマウンテンバイクやケイリンが採用され、Jリーグの成功に続くのは“サイクリング”と欧米から評価されたのに…

平成の「自転車のブーム」は何故かエコ系？

そう、どうやら過去の「サイクリングブーム」とは違うようで、生活者目線に立った自転車の可能性の再認識であり、電動アシスト自転車も必需品になっているように

ハードは、ロード、MTB、ミニベロ、クロスバイクと百花繚乱で、通販の人気アイテムにもなっている。

そこで転遊研から、「ハード・ソフト・マナー・インフラ」のテトラバランスを提案。

人と大地をつなぐ道具としての自転車には、「スポーツアイテム」と「日常の足」という二面性があります。

さらにエンジンが人間と言うことは、10人100色の使い方、楽しみ方があります。

そのため日本の実情に合った自転車遊びを模索する実証実験の中で探り当てた「自転車さんぽ♦THT26」に対しても、多くの人からのツッコミがあり、自転車多様性を語るためのテトラバランスを思いついたところです。

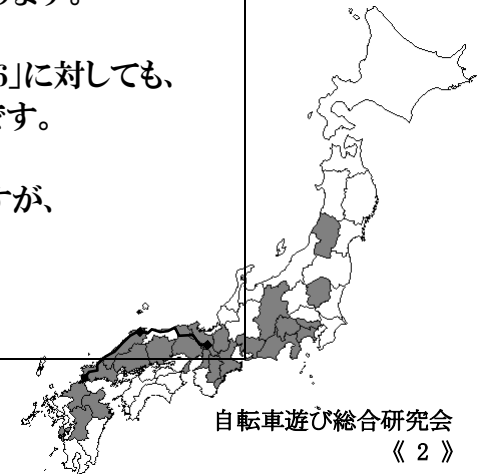
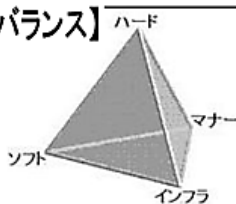
これで、自転車が締め出された感のある走行環境整備に一步も二歩も近づいたと思ったのですが、

改めて「道は誰のもの？」という疑問が！

自転車走行環境正四面体

【テトラバランス】

自転車多様性を、ハード(作る人、売る人、使う人)、ソフト(楽しむ人、仕掛ける人、ネットワーク)、マナー(ルール、マナー、テクニック、日常利用)、インフラ(道路、セキュリティ、保険、サイクリングクラブ)の4つに凝縮。



「自転車遊び三原色」

ブームが繰り返される要因に、ハード先行・ソフト不在があると思います。この“ハード”はもちろん「自転車」ですが、“ソフト”は「イベント」でしょうか？実は「イベント」は、走る場の提供であって、道と同じく、箱物である“インフラ”と言えます。

転遊研では、道を走る“マナー”や、自転車の使い方、乗り方、楽しみ方を伝える仕組みや人材を含めて“ソフト”と考えます。つまり“ハード”に対応した“インフラ”と、それらを活用する“マナー”や“ソフト”は一体だと言うことです。

実証実験で探り当てた「自転車さんぽ◆THT26」は、年齢性別車種不問で楽しめ、主催者の大小や目的を問わない、万能ソフトですが、道には種類があるため、改めてインフラ整備を待たなくて良い自転車遊び三原色(※注1)を提案します。

「THT」の「T」は、「旅チャリ26」の「T」。

自転車遊び万能ソフト「自転車さんぽ◆THT26」は、路地を得意としており、街のお宝再発見にはうってつけです。一方、『JTB』の登録商標である「旅チャリ」は、電動アシスト自転車のリースシステムですが、やはりハード先行・ソフト不在の問題点があり、コラボ企画として「旅チャリ26」の話しが進んでいます。

「知らない路地を曲がれば旅の始まり。」とは、某放送作家の言葉。でもその作家、チャリと言う呼び方は嫌っています。サイクリングの入口としては最高の「T」と思いますが…

「THT」の「H」は、「ハンドレッド・バイ・ハンドレッド」の「H」。

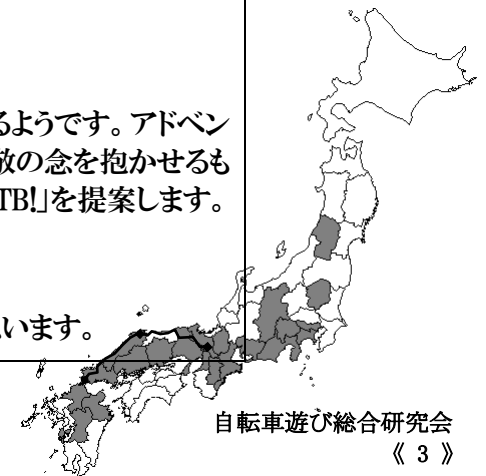
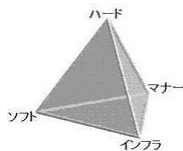
某自転車雑誌編集長(故人)のアドバイスを受け立ち上げた「ルート・エヌ」は日本初のブルベと自負しています。そのブルベも4年毎に開催される PBP 基準のブルベ(※注2)に席捲されていますが、某自転車ショップ店長発案の選定した100km風景街道を100回走ろうという意味の「100×100」を、ナショナルブルベとして再提案したいと思います。

「THT」の「T」は、「シンキングMTB！」の「T」。

某S社によると、世界的にはMTBの方が人気あるとのことですが、日本の山道は諸々の理由によって利用制限があるようです。アドベンチャーコンペティション(※注3)としての利用はランに奪われた感がありますが、MTB ラリーレイドほど、自然に対して畏敬の念を抱かせるものはありません。しかしグレーなため、地産地消型と奥座敷型の両面(※注4)からMTBフィールドを考える「Thinking MTB!」を提案します。

「山の辺の道サミット」(※注5)

道はみんなのものです。歩行者、自転車、自動車、そして移動の自由を考える「山の辺の道サミット」も提案したいと思います。



ところで震災以降良く目にする「絆」には、馬などの動物をつないでおく「綱」という意味もあります。
サイクリングの大前提は平和な地球ですが、止まることの出来ない自転車は、危機管理面でも他を半歩リードしています。
その意味でも、自然に対して畏敬の念を抱かせる MTB ラリーレイドの可能性を実証実験したいと思っており、
地産地消型と奥座敷型の自転車遊びから見てくる

不連続な道の存在と、移動の自由を、再検証しませんか？

MTB ラリーレイドは、山道を含む全ての道を対象に、コースを組み立てます。
その道の利用に関しては、様々な団体や個人や監督官庁や行政が絡んでいて、その複雑さは容易に想像できます。
しかしその一方、移動の自由は保障されるべき権利で、
車両の長兄であり、歩行者の気持ちも分かる自転車からの意見は貴重だと思います。

つまり、「自転車走行環境の要素の把握」＝「入口と出口の確認」と考えます。

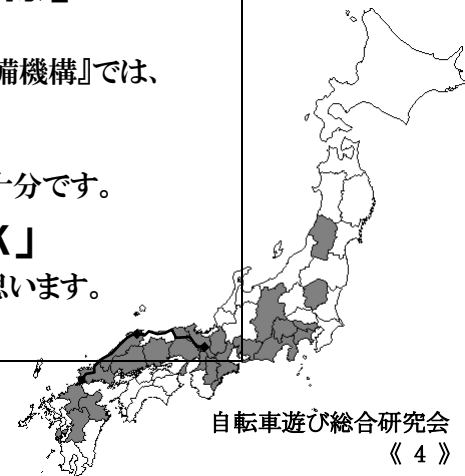
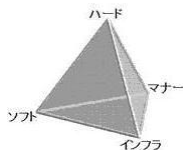
先にも書きましたが“サイクリング”に対するイメージは10人100色です。
全ての道が対象なのは「MTB ラリーレイド」かも知れませんが、多くの人がイメージするのは「街道サイクリング」でしょう。
でもどちらも、日常生活で10～15分程度の自転車利用者には理解できない世界です。
ここで生きてくるのが自転車遊び万能ソフトの「自転車さんぽ♦♦THT26」です。

日常利用とスポーツ利用の狭間に存在する「自転車さんぽ境界線」

“もっと楽しく、もっと便利に、もっと安全に”といった視点で、震災後に立ち上げた『NPO 法人日本自転車環境整備機構』では、
日常利用からスポーツ利用までを網羅する自転車多様性を「BEI 式ピラミッド」で図解しており、
その境界線に「自転車さんぽネットワーク」を当てはめて解を求めようとしています。
それは15分利用者を3時間利用者にはスキルアップさせるには十分ですが、サイクルツーリストを生むには不十分です。

「自転車さんぽネットワーク」をさらに進化させた「THT Network」

都市交通や観光利用や旅の相棒など、自転車走行環境の改善に興味を持つ全ての人に呼び掛けたいと思います。



- ※注0・・・不連続な道と移動の自由／代表例：旅的な、淡路島～徳島間の移動。日常的な、逆走アリの自転車通学路。
- ※注1・・・自転車遊び三原色／路地が得意な自転車さんぽ、街道を行くファストラン、山道大好き MTB ラリーレイド。
- ※注2・・・PBP基準のブルベ／パリ～ブレスト～パリへの参加資格取得の200・300・400・600を走破する実力認定基準。
- ※注3・・・アドベンチャーコンペティション／旅と競技の両方の性格を持ったイベント。ツーリングコンペティションとも言う。
- ※注4・・・地産地消型と奥座敷型／アウトドアスポーツ全般。地元の人が地元を楽しむものと、都会の人が田舎を楽しむものがある。
- ※注5・・・山の辺の道サミット／奈良盆地北側に現存する日本最古の幹線道跡の名称を冠した、道の再配分利用を考える会の提案。
- ※注6・・・3K3M／自転車遊び三原色を、それぞれ相性の良い3つの媒体と協力して、年4回のタイアップページを組む企画です。

十分な解説ではありませんが続けます。バブル崩壊以降、失われた20年という言葉もあるように、日本のサイクリングシーンにおいても前進しない20年と言えます。実証実験をメイン活動にした転遊研を思いつく以前の1990年代に、MTBラリーレイドやブルベを日本に紹介して来ましたが、それらはあくまでも中級以上の自転車愛好者が楽しむソフトの欠如に対しての企画提案(Ver.1)でした。今でこそ、乗る場所の提供であるイベントは箱物インフラに等しいと言い切れますが、それを裏付けるデータや状況証拠は、実証実験(Ver.2)で広がった仲間の存在から得られたものです。

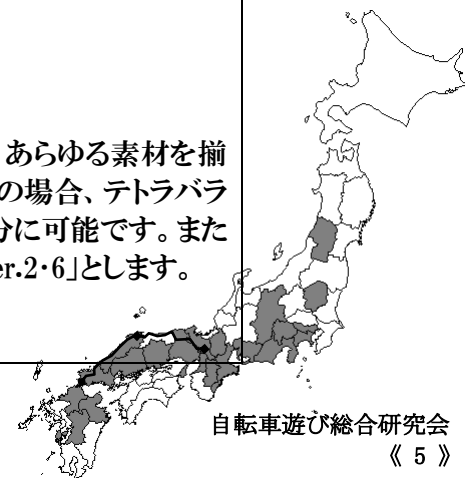
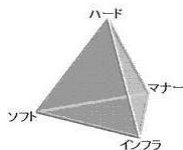
日本の実情に合った自転車遊びの獲得以上の成果！

自転車遊び万能ソフトの「自転車さんぽ♦♦THT26」の可能性を疑う余地はありませんが、地味な側面は否めません。そのため、サイクリングのベストシーズンの春と秋にショップへ向け共同告知をしていましたが、効果はイマイチであり、どこに原因があるかを考えた時、某自転車卸しの専務(当時)が口にした「春需でソフトを売れないか？」という言葉思い出しました。そこにテレビの特番で見た、趣味の手芸用品を売っている店の成功例が使えないかと考えました。

ユザワヤ方式で、春需でソフトも売りませんか？

「春需でソフトを売る」とは、「自転車に接する最初の機会を逃すな！」と言うことです。一方、「ユザワヤ方式」とは、あらゆる素材を揃え、それらを使った手芸教室を開き、さらに展示会も催すという、究極のマッチポンプ型マーケティングです。自転車の場合、テトラバランスの一定の整備が必要ですが、インフラ整備を待たなくて良い自転車遊び三原色を軸にしたソフトの仕込みは十分に可能です。また春需だけではカバーできない情報もあるため年4回の定期リリースも模索します。それらの呼び掛けを「THT Japan Ver.2・6」とします。

(※注6) **3K3Mでの定期リリースに、ご理解ご協力をお願いします。**



自転車さんぽ

旅チャリ26

前編のラリーディ2012

参加者募集!

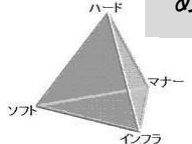
bikebiz 自転車さんぽ THT 26

八雲 10月10日 3,110円	飯沼野 10月11日 3,110円	水地 10月12日 4,710円	中谷 10月13日 4,710円	若原 10月14日 4,710円
清津区 10月15日 5,210円	新井川 10月16日 5,210円	大和郡山 10月17日 5,210円	新田 10月18日 5,210円	宇部 10月19日 5,210円
本郷 10月20日 6,710円	新井 10月21日 6,710円	野次 10月22日 6,710円	富士北町 10月23日 7,210円	高野 10月24日 7,210円

旅チャリ26 前編のラリーディ2012

THTジャパン準備事務局 〒249-0008 神奈川県厚木市小坪3-7-7 敷設管内
TEL: 045-673-8373 FAX: 045-673-8381 E-mail: tmt@bike-joy.com URL: http://www.bike-joy.com/THT26.htm

※日本の実情に合った自転車遊びの模索で「自転車さんぽ♦THT26」を探り当て、エントリー層の入口として、主催の大小や目的を選ばない万能ソフトをほぼ確立。但し、どこでも実施できる内容は地味なことが条件でもあり、それを理解した上で、ご協力をお願いできる運営チーム数の拡大が、今後の課題であり、Ver. 2・6の主題です。



ファストララン

さんいん 1300

RouteN = Brevet Born in Japan
2012 August 9-13

関西コース自由 下関 松江 ゴール

スタートフリー スタート自由 10000円

PC4 10000円

コントロールエリア 10000円

ゾーンフィニッシュ 10000円

さんいん1300申込用紙

※災害風景と自然美は紙一重です。主催者にとって、日本の道は困難で危険な箇所が少なくありません。それでも走り出したら自己責任は不変です。ファストララン認定システムのナショナルブルベの確立と、その先にある自転車国道構想に向けた実証実験です。

MTB ラリーレイド

さむらいバイク

参加者募集

10月16日 Rd.1 ステージ徳名山
11月・6日 Rd.2 ステージ富士貴
11月27日 Rd.3 ステージ本根城
(2月) Rd.4 ステージ興隆
(3月) Rd.5 ステージ奈良

新型ラリーレイド登場

「さむらいバイク」は、地味な山道や険しい道にばかりは「走りたい」のではなく、新しいラリーレイドです。その特徴は「ロングライド」と「ショートライド」です。移動距離のリエントランを特徴としたツーリング的に楽しむのも、競技区間のスペシャルステージを真剣に走るのも、参加者次第です……

「さむらいバイク」は、地味な山道や険しい道にばかりは「走りたい」のではなく、新しいラリーレイドです。その特徴は「ロングライド」と「ショートライド」です。移動距離のリエントランを特徴としたツーリング的に楽しむのも、競技区間のスペシャルステージを真剣に走るのも、参加者次第です……

※地産地消型(地元と都会のMTBクラブの交流)と奥座敷型(ショップやメーカーと地元行政の協力)の融合を通じて、日本の山道利用の再考(管理者へのアピール)をします。

